

「私たちも見守っています。
ご相談ください」



在宅介護支援センターハートランド 保健師

(模擬訓練スタッフ) **小又 佳奈子** さん

認知症になっても地域で暮らしていくとなると、やはり家族だけでは限界があります。私たちのような相談窓口や介護施設、病院に相談してください。認知症の方は病気を知られたくない、恥ずかしいと思っています。隣近所の方はその人をよく知っていますし、様子が変だと感じています。認知症の方が徘徊していたら、気づいて家に連絡してくれたり、連れて帰るケースもあります。普段からの近所付き合いが大切だと感じています。



在宅介護支援センターハートランド 社会福祉士

(模擬訓練スタッフ) **高田 千尋** さん

私たちは地域を回り、地域で暮らしている認知症の方と接しています。認知症は治ることのない病気でそれぞれ症状があります。患者さんは自尊心を持っており、人生の先輩ですので、相手に合わせながら仕事をしています。認知症サポーター養成講座は貴重な体験になりますので、ぜひご参加ください。

官民連携で見守り 支え合い

地域で安心して
暮らせるよう
支援します

警察庁の調べでは、平成28年の認知症の行方不明者は、全国で1万5432人となっており、地域の見守りがあれば未然に防げるケースもあります。本市では、市民が認知症などの介護が必要になっても、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、今回紹介した「認知症サポーター養成事

■認知症初期集中支援事業
医師や保健師などの専門職が、認知症が疑われる人や認知症の人、その家族を訪問し、早期の支援を行います。

■高齢者あんしん見守り協力隊登録事業
日ごろの生活や仕事の中で、高齢者を見守る「高齢者あんしん見守り協力隊」として、市内146団体が登録して見守ります。



■徘徊高齢者等支援事業
徘徊により、自宅に戻れなくなるおそれのある高齢者などの情報を登録し、警察署に提供しておくことにより、保護者への連絡を円滑に行います。

徘徊高齢者等支援事業では、徘徊高齢者などの情報を事前登録すると、登録番号が付いた「みまもりキーホルダー」をお渡しします(無料)。登録者の持ち歩く財布、バック、リュックなどにつけておきましょう。(※)

(※)「駒らん情報メール」でも徘徊情報を配信します…登録者の携帯電話やパソコンにメールで配信する同情報メールに、徘徊などで行方不明の届出が警察にあった場合、家族や関係者の同意を得て、行方不明者の特徴などを配信し早期発見・保護へつなげます。

相談窓口

- 高齢介護課 ☎6722
総合的な相談のほか、各種介護保険サービス・高齢者福祉サービスに関する相談も行っています。
 - 十和田市地域包括支援センター ☎3671
認知症介護へのアドバイスや、地域のサポートを受ける方法などのお手伝いをしています。
 - 在宅介護支援センター
本市が相談事業などを委託している在宅介護支援センター8施設は、地域の身近な相談窓口となっています。
- | | | |
|------------------|--------------|---------|
| 十和田在宅介護支援センター | 西二十三番町30-36 | ☎26666 |
| 在宅介護支援センター三葉苑 | 深持字松森6-7 | ☎272468 |
| 在宅介護支援センターみちのく苑 | 三本木字里ノ沢1-62 | ☎257700 |
| 在宅介護支援センターハートランド | 相坂字高清水78-450 | ☎252221 |
| 在宅介護支援センター八甲荘 | 相坂字高清水78-232 | ☎585535 |
| 在宅介護支援センター老健とわだ | 洞内字長田60-6 | ☎273130 |
| 在宅介護支援センターおいらせ | 奥瀬字中平156 | ☎722052 |
| 在宅介護支援センター湖楽園 | 奥瀬字下川目2-58 | ☎703050 |

[認知症疾患医療センター]

■高松病院 ☎7785
認知症の早期発見、治療を行い地域施設と連携して支援します。

[もの忘れ外来]

■市立中央病院 メンタルヘルス科 ☎5121
■高松病院 ☎6540

業」のほか、官民連携でさまざまな事業を行っています。



「いらっしゃいませ。どうなされました」

認知症役のスタッフが突然銀行を訪問しても、銀行員の優しい声がけには、役者も頭が下がります



まちの皆さんも
温かく
見守っています

相手の気持ちに 寄り添う 徘徊対応訓練

現在、65歳以上の4人に1人が認知症とその予備軍と言われています。また、徘徊などによる行方不明者も増えています。そのため、本市では認知症対策の一つとして、徘徊している認知症高齢者への対応方法を市民が学ぶ、「認知症高齢者徘徊(対応)模擬訓練・認知症サポーター養成講座」を行っています。今年度は、6月14日・東小稲町内会、6月15日・吾郷町内会、8月2日・中央商店街周辺で行いました。参加者は高齢者見守り協力隊や民生・児童委員、市民など約200人。講座では、まず認知症に関する基礎知識や、体調の悪い高齢者に気付いた際に119番通報する手順などを、講話を通じて学びました。続いて数人ずつのグループに分かれて外に出ての模擬訓練を行いました。スタッフ扮するさまざまな症状を持つ認知症高齢者が、色々な場所について、参加者に対応しました。参加者は事前に学んだ対応の仕方、ゆっくり視線を合わせ、「お名前は？どこから来たの？」などと適切な声がけを実践することで、認知症



認知症高齢者役を演じるスタッフ

「身体具合が悪いの?」「どこから来たの?」と講話で学んだように、安心感を与えるような声がけをする参加者



「どうしたら、うまく対応できるか」と、講座を真剣に学ぶ参加者たち

への理解を深めました。終わりにスタッフから、「認知症の方には、顔を見ながらゆっくり話しかけ、安心感を与えることが大事です。」

今日の訓練を思い出して、これからも対応してほしいです」とアドバイスを受けていました。